



立川市議会議員

子育てまっさい中!

原 ゆき 通信

2026年度春号



すべての家庭が孤立しないまちへ。

産後ケアの充実とユニバーサル化

今任期中に第2子の出産を経験しました。

当時の産後ケアは、利用に要件があり、家族の支援がある場合は対象外となる仕組みだったため、私自身、制度を使うことができませんでした。けれど、産後の不安や心身の揺らぎは、家族がいてもなくなるものではありません。

「必要な人だけ」ではなく、「すべての母子が使える制度へ」変えていく必要があると感じました。



その後、議会で繰り返し取り上げ、令和8年度、**産後ケアは大きく拡充されます。**



利用要件の撤廃
実質的なユニバーサル化

受託機関の拡充

多胎家庭への
回数加算

この春、暮らしの中で始まること

これらは3月議会で可決された
新年度予算に反映されています。

予算の概要はこちらのQRからご覧になれます▶



ベビーシッター利用支援に
「一時預かり」を追加

急な用事やリフレッシュにも
使いやすく。



子どもショートステイ事業の
定員枠を柔軟運用

“いっぱい使えない”を
減らす仕組みに。



放課後子ども教室「くるプレ」
市内全小学校で導入

学童保育所の
待機児問題解消へ。



ICT支援員の配置/
学校連絡のオンライン化

先生が子どもと向き合う時間を
増やし、保護者の負担も軽減。



インクルーシブ
教育支援員の配置

子ども一人ひとりに寄り添い、
学びを支える体制を充実。



全校で
生分解性バイオポリマー製
ストローを本格導入

身近なところから環境配慮を。



パートナーシップ・
ファミリーシップ宣誓制度

誰もが家族として
尊重されるまちへ。



公契約条例
スタート

市の仕事を支える
働く人の環境を守る仕組み。



これまで議会で
求めてきた内容が、
新年度の取り組みに
反映されました



子どもが成長しても、支援が途切れないこと。
 家族だけで抱え込まなくていいこと。
 制度は、そのためにあります。



医療的ケア児・者とそのご家族への支援も、段階的に広げてきました

医療的ケア児の
放課後の居場所を

18歳以降に通える場所
がありませんでした

介護を担うご家族の
休憩時間を

学童でも 受け入れ実現

保育所に加え、
学童保育所でも受け入れ
が可能になりました。

18歳以降の 居場所づくり

医療的ケアの必要な方や重症心身
障がいのある方も通える生活介護
事業所が市内でスタート！

レスパイト時間 を拡充

在宅レスパイトの利用上限時間を
96時間から**144時間**へ
拡充しました。



立川市に新たにオープンした【luluそこに】

現場の声を受け、制度の見直しを実現しました！

医療的ケア児支援関係者会議を傍聴する中で、
「上限時間を増やしてほしい」という現場の声を伺いました。
制度を調べると、他自治体では見直しが進む中、本市では
上限時間が据え置かれている状況でした。
こうした課題を踏まえ議会で提案し、在宅レスパイトの
利用時間の拡充につながりました。



すべての子どもたちに、学びと育ちの機会を。「子育て支援」の理念を形に。

3月議会で
取り上げた
テーマ

不登校の子どもたちの選択肢となる「学びの多様化学校」や「チャレンジクラス」を
視察しました。現場での取り組みや子どもたちの様子から多くの学びを得ており、
その経験を提案へとつなげています。
また、日頃寄せられるお困りの声も、議会での活動全体に生かしています。

保育園における障がい児受け入れの考え方

不登校の子どもたちの居場所の充実

学童保育で「親の疾病」などの配慮の検討

インクルーシブ保育の推進

発達ピアサポーター養成講座と現場支援の連携

子連れでも利用しやすい窓口づくり



由比ガ浜中学校(学びの多様化
学校)の、生徒たちが作り上げた
「つどいスペース」。子どもたちのお
気に入りグッズにあふれています。

多摩市愛宕中学校のチャレンジ
クラス。ゆったりした教育課程で、
リラックスできるフリースペースが
あり、無理なく継続できる環境が
ありました。



声 が、まちを動かす



母として子どもに向き合う中で感じたこと。

教育の現場で見てきたこと、子どもたちの姿。

その一つひとつの経験が、私の原点です。

市議会議員となり立場は変わっても、現場の声に耳を傾ける姿勢は変わりません。

格差や制度のすき間など、見えにくい課題に向き合いながら、

声を上げにくい人のそばに立てる政治でありたいと考えています。

これからも、暮らしの現場に寄り添い、一歩ずつ前に進めていきます。

市議会議員って、何をしているの？

そんな疑問に答える「リアルな一日」や、
制度の解説動画を配信中です。
一期目4年間の取り組みもシリーズでお
伝えていきます。「原ゆきチャンネル」
ぜひのぞいてみてください！



発行責任者 原ゆき事務所

Tel:070-9008-7455 / Fax:050-3488-7544 mail:harayuki0802@gmail.com

郵送物はこちら ▶ 〒190-8666 立川市泉町1156-9 議会事務局

Profile

1987年生まれ38歳。元小学校教員。長妻昭衆議院議員元秘書。
若葉小/立川九中/錦城高校/都留文科大学卒。夫、子2人(5歳、2歳)と共に若葉町在住。

ホームページ「お問い合わせ」フォームから
皆さまのご意見お寄せください！

<https://harayuki.com/>

SNSで日々の活動を発信しています！

